



菅波 茂

阪神大震災の時に世界百数カ国から暖かい支援および支援申し込みがあった。日本として今後、この海外からの「思いやりの心」にどのように答えていくのか。その一つがアジア太平洋緊急援助機構（APPRO）である。

アジア太平洋緊急援助フォーラムが岡山にて、十月六日から八日の三日間にわたって開催された。参加者はAMDAをはじめとするアメリカ、カナダ、ロシア、オーストラリア、ニュージーランド、フィリピン、インドネシア、バングラデシュ、インドなどの有力NGOである。自然災害などに困

思いやりの心

ったときに、お互いに助け合おうという相互扶助を基本精神とするAPPROが発足した。

不思議なことに、会議中からインドネシアのスマトラ島大地震、続いてメキシコ大地震、そしてフィリピンの台風による大被害が発生した。AMDAはAPPRO参加のNGOと協力して迅速かつ効果的な救援活動を実施することができた。APPROは動いた。APPROは訴える。相互扶助による助け合いは相互信頼を生む。この相互信頼こそ第二次世界大戦終戦五十年にあたり日本がアジア太平洋の国々に示すべき平和のための道標ではないだろうか。

・題字は筆者
(アジア医師連絡協議会代表)